

新修記録

住吉御殿(三の九旧御殿移築復元)竣工を観る・外

九月十二日(土曜午後二時―五時)
池船・山本家に於ける地区研修会の状況

定刻住吉神社の前には既に十数名の会費が集つてゐる。今日第一のことは「住吉さんの大楠」目通り寸法。幹事用意の巻テープが大きな幹の膚に眼より高さで張られる。それのおてつこということにはした。七米五〇、いや八米二〇とてんで目測した結果を書き留め、さてテープを外して測つたところ六米四六。的中者一人もなく八米七米以上。高さは測るなかつたが樹令は四百年位だろうということである。

それから住吉神社の拜殿に上り、棟札や藩公御座船の陰などを見、船頭所の西野区長以下役員の方々とお話を交わす。拜殿の床板が美しくきつちりと敷かれてあり、船頭所の方々のガツチリした体勢を感ずる。

住吉御殿と呼ばれる三の九御殿の移築、復元は、住吉神社のすぐ後、船頭所川を脊にし前に広場をのこし、見事に出来上つてゐる。大屋根の軽量化は言うなかれ。そのかわり大玄函の素晴らしさを左左えよう。藤々としたおたりの左左すまい、玄函先左右に植えておける蘇鉄とム対比、完全に復元し漆喰も入念に、そして垂木の端は赤銅で巻かれてゐる行届いた出来。

中に一歩入れば新しい畳と壁、天井も材料を選んで張りかえてあるし、柱や鴨居も長押し蒸ちついで左色に塗られ、昔の御殿も全くこうであつたろうと思う。左左正面の広い大きな床の間、障の低いところを面取と考えての窓にしてある。こればこの御殿を集会場として活用する上の工夫で、その裏に置敷きと長廊下と西南の隅に便

所を設けたりと同様、まゝよよとすべきであらう。この建物を「御殿」と呼ぶ、場所名を上につけた住吉御殿は、今後凡ゆる会合に市民から愛用されるであらう。御殿を出た一行は池船橋の袂の常夜燈を見て、それから池船返の山本係会費のお宅に集つた。

(高木、市原、河野、伊賀、海矢、五十川、七藤田、平川、宮田、岩田、山本、吉田、武衣、高橋、羽柴、若杉、高野、早良、長谷川、以上七名) 羽柴幹事例によつて十数冊の本を持参。先ず先般御座船にたいたい「年次呼」と話題にし、ついで武石会費より城八幡社の神刀の行方について依頼があり、終戦後の進駐軍による刀狩りで席かによつたかになる。

次に復元御殿の名称について、船頭所区から先刻依頼のおつたのを諮つたところ、いろいろ出たが決着はない。話は招魂所の例本処聖復元の問題に移り、市教委にも市長にも交渉して、早急に片附けぬば——ということから、とかく文化財の管理は積極的の手を打つべきだといふ意見。母年礼城址の史跡指定のこと及び弥生所住伯市合同でといふ意見。いろいろ話がはずぶ。

ここで佐伯惟治と日じめ佐伯氏の主な人の位牌を、その菩提所である龍護寺にまつり、毎年十一月二十三日この供養の集会を——は、との提案、全員賛成する。帰りのバスの初会もあり、五時すぎ町会解散した。山本家の邸配意に有り難く感謝したい。

(附記)

本年度の研修計画はとり上げたこの種の地区研修会をおすすめる。会員二、三人でもよい。連絡下されば出席しそなた会費を渡り、本部からも出席する。先ず若干の現地研修を行つて(両方とも)後はよく(よい)後日会費の窓に近所の同好者、長老五名から加つてもらい資料を検討し、伝承や風習などを次に話題にして、せんべいでもかきりながら史談を交そうといふもの、地区毎に蒸ちしてほしものである。